SAMPLE

ネオロマンス・フェスタ
金色のコルダ
10th Birthday

DATA

開催日／場所

2013年9月7日・8日／パシフィコ横浜

声優

高木礼子／谷山紀章／伊藤健太郎／福山 潤／森田成一／日野 聡／前野智昭／石川英郎／小西克幸／保村 真／内田夕夜／佐藤 朱／増田ゆき／水橋かおり

関連商品

DVD LIVE VIDEO ネオロマンス♥フェスタ 金色のコルダ 10th Birthday

Reiko Takagi
小日向 かなで
Kanade Kohinata
日野 香穂子
Kahoko Hino
音楽の経験はなかったが、リリからもらった魔法のヴァイオリンでコンクールに挑む。
CV
高木礼子

Kentaro Ito
八木沢雪広
Yukihiro Yagisawa
土浦梁太郎
Ryotaro Tsuchiura
CV
伊藤健太郎

月森 蓮
Kishow Taniyama

Masakazu Morita
火積司郎
Shiro Hozumi
火原和樹
Kazuki Hihara
CV
森田成一

志水桂一
Jun Fukuyama

衛藤桐也
Satoshi Hino

Tomoaki Maeno

金澤紘人
Hideo Ishikawa

王崎信武
Katsuyuki Konishi

Makoto Yasumura

Yuya Uchida

冬海笙子
Akemi Sato

天羽菜美
Yuki Masuda

リリ
Kaori Mizuhashi

「ネオロマンス・フェスタ　金色のコルダ　10th Birthday」スペシャル対談

伊藤健太郎 × 森田成一

「金色のコルダ」10周年の歴史を
ゲーム、アニメ、イベントのジャンル別に
おふたりに語っていただきました！

Masakazu Morita

10周年を振り返って

伊藤▶最初はゲームから振り返りましょう。まず、オーディションですね。印象に残ってるのは、LR（注：月森と土浦のセリフ）両方読まされたこと。

森田▶俺、火原だけ。

伊藤▶今にして思えば、僕が月森じゃなくてよかったなと。

森田▶「指先は割れやすいから、気をつけないと」。

伊藤▶懐かしいフレーズ（笑）　「バイオリニストの手だ！」

森田▶役が決まったあと、青二プロダクションの会議室で説明会があった。

伊藤▶決起集会がありましたね。

森田▶初めてそのとき、メンバー全員で顔合わせた。で、俺は英さん（石川英郎さん）は知ってたけど、ほかの人は一切知らなかったから、えらく緊張した。

伊藤▶森田君と「はじめまして」をした日ですね。そこからコルダは始まったと。その後ゲーム収録になるわけですが、僕はコルダで、恋愛シミュレーションといわれる作品に初めて触れたという印象があるんですよ。主人公との恋愛をシナリオの分岐によって追っていくという収録は初めてだったから、「こんな世界に足を踏み込んでいいんだろうか？」という気持ちはすごくあった。

森田▶あ〜、なるほどね。

伊藤▶その時「ネオロマンス」というカテゴリがすでに確立してて、先輩たちのイベントパンフレットの写真とか見ながらみんなで笑ってた。

森田▶笑うなよ（笑）

伊藤▶そこにまさか、新タイトルゲームで自分が合流することになるとは思ってなくて、戸惑いましたよ。

森田▶俺も恋愛シミュレーションゲームは初めて。まだゲームに声優の声が入っているのが一般的じゃなかった頃だよね。それなのに、セリフの量の多さにびっくりした。恋愛の気持ちが進むと台詞も変わるし、芝居も変わる。だから、台本を頭から収録するんじゃなく、恋愛の度合い別に並べ替えて収録していったよ。

伊藤▶最初Window版でやった頃は、楽譜集めるのも大変で、結構難しかった。難易度も高かった。僕はキーボードで操作してたから余計に。

森田▶俺、その時パソコン持ってなかった。その後ゲーム機に移行していくと。

伊藤▶そこから始まって、ゲームも「金色のコルダ２」「金色のコルダ３」と進んで、学内コンクールから全国大会になっていったわけですよ。

森田▶コンクールをひとつのポイントにしていくのは、ゲームとして面白いね。

伊藤▶そこから携帯ゲームになって「100万人の金色のコルダ」になりました。ネットで繋がって、交流ができるのがいいですね。

森田▶てのひらで「コルダ」ができるようになるんだから、今後はどこまでいくんだろう？

伊藤▶次のコルダはヴァイオリン型のコントローラーでプレイするようになったりしてね。実際に演奏しないと仲良くなれない（笑）

森田▶うわ、レベル高い！（笑）

伊藤▶次にアニメ「primo passo」が始まって。

森田▶ゲーム発売から3年後にアニメ化って早いね。

伊藤▶ゲームだといろんなエンディングが迎えられるけど、アニメだと1本のシナリオを追っていくので、最終回香穂子とエンディングを迎えるときはどうするんだろうって、すごくドキドキした。

森田▶ひとつの物語としては決着つけなきゃいけないし。

伊藤▶DVDではマルチエンディングが付きましたね。そして加地 葵登場の「secondo passo」も発売して。

森田▶このあたりから、新しい空気が入ってきたね。コルダのアニメから入ったファンの方もいたし。

伊藤▶「primo passo」の時、みんなで主題歌「CRESCENDO」を歌ったのはいい思い出です。

森田▶ありましたね、踊りましたね！　Stella Quintet。

伊藤▶うちの息子があの頃言ってましたよ。DVD見て、「僕も大人になったらStella Quintet入る」って。

森田▶かわいい〜。

伊藤▶それで、仲間になろうと必死でみんなの似顔絵描いて、星奏学院祭で披露しましたよ。

森田▶ああ、それでなのか。あれは入りたいから絵を描いてきたんだ。

伊藤▶覚えてます？　Stella Quintetがスポーツ新聞にとりあげられたことあったの。その時のキャッチが「金色の声ダ」。

Kentaro Ito

森田▶その記事を書いてくれた方、本当にありがとうございます。

伊藤▶いろんな経験しましたけど、その最たるものがイベントですよ。

森田▶やっとうちらがコルダのオンリーイベントを開催できたとき、感慨深かった。

伊藤▶演奏者の方ともコラボできたしね。

森田▶俺、火原のトランペットを担当した阿部一樹君と、パシフィコの部屋にこもって合わせたよ。懐かしい思い出だね。

伊藤▶僕も最初「ANOTHER REVOLUTION」で、「革命」（ショパン）をガ〜っと弾いてもらって、となりで歌うから、プレッシャーがすごかった。

森田▶いろいろ実験的にやらせてもらえたね。二人のデュエット「W-BREEZE」と「W-BLIZZARD」とか。

伊藤▶最初、下北沢におそろいの衣装を買いに行きましたね。

森田▶行ったね〜。幼稚園生がつけるネームつけて、ジャグリングして。

伊藤▶次の衣装は「もうちょっと王子様っぽい衣装にしよう」というコンセプトで、原宿へ買いに行ったんですよね。

森田▶ローラーブレードね。スキーとスノボをモチーフにした曲だったから、なんか疾走感がほしかった。あのときのステージが結構狭くてね。

伊藤▶いろいろとやりましたね。

森田▶ほかに、思い出深い曲とかあるね。「PRECIOUS」で初めてラップやったとか。

伊藤▶僕は「TOMORROW」でピアノ弾いたのが思い出に残ってますね。

* * *

伊藤▶前回のイベント「ネオロマンス・フェスタ 金色のコルダ 〜Featuring 4 Schools〜」では、「金色のコルダ３」が題材だったけど、今回は「金色のコルダ」が題材ですからね。前回を越えるイベントにしたいですね。

森田▶「金色のコルダ」「金色のコルダ２」のしっとりとした世界をベースに、「振り返る懐かしさ」とともに、新しいものを生み出していきたいですね。ここから20年、30年とあるので、これからも応援していただきたいですね。

伊藤▶11年目の第一歩です。と言う感覚で、客席も舞台もみんなで盛り上がりましょう！

森田▶よろしくお願いします！